

はく いちゅうしんきよてん

羽咋中心拠点地区

(石川県羽咋市)

- 計 画 期 間 平成 25 年～平成 29 年
- 面 積 47.4 h a
- 交付対象事業費 1,249 百万円
- 市人口 20,386 人

ポイント

羽咋市の顔、賑わい拠点と安心居住でまちなか再生

JR七尾線 羽咋駅を起点とする中心市街地は、羽咋市第 5 次総合計画（2011～2020）で「羽咋市の『顔』となる拠点」と位置づけられ、古くから商工業・居住・行政等といった都市機能が集中する市民生活の拠点区域となっている。

目 標

当該地区において、官公署、小中学校や市民体育館等、多数の公共公益機能等の既存ストックの有効活用を促し維持向上させることにより、さまざまな機能が集積された利便性の高い快適な居住空間を形成し「はくい再生」を図る。

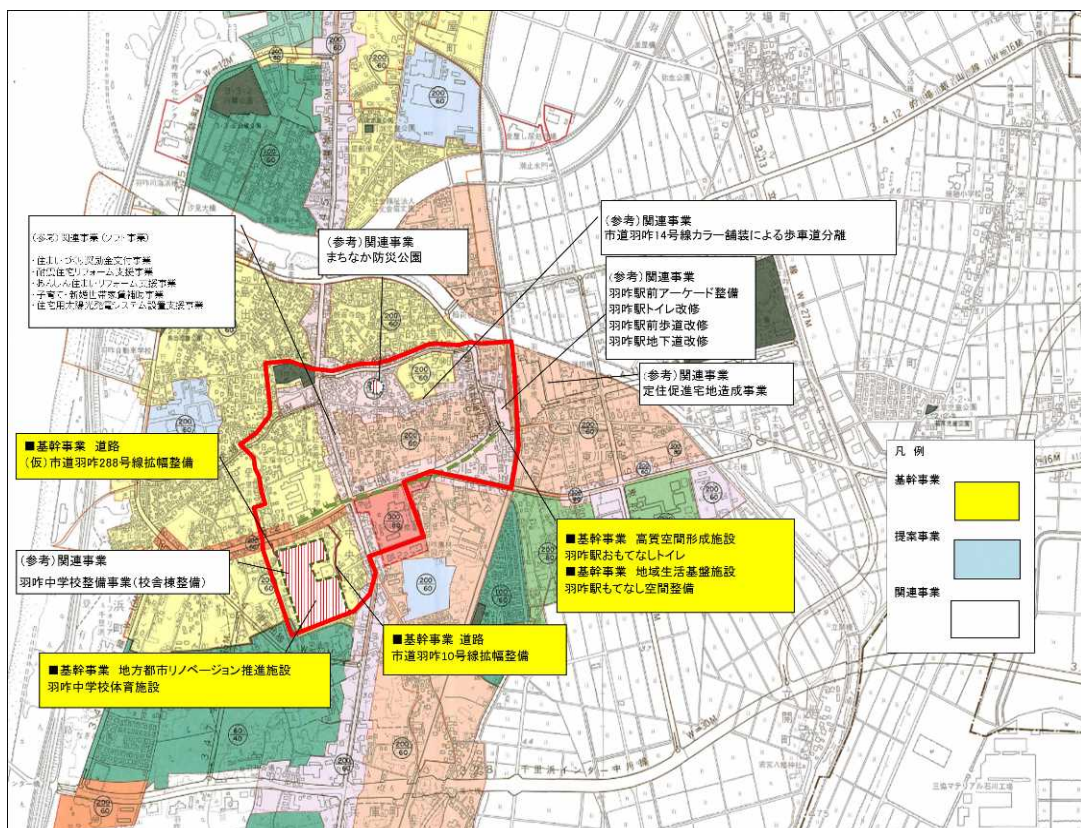
指 標

交通結節機能の強化を図り、さらに駅周辺の施設を充実させることにより交流人口の拡大および定住人口を維持するための指標として、公共交通の利用者数の維持、まちなか体育施設の利用者数の増加、計画区域人口の維持を設定。

公共交通の利用者数	485,841 人 (H25)	→	481,822 人 (H29)
まちなか体育施設の利用者数	46,673 人 (H25)	→	67,481 人 (H29)
計画区域人口	4,610 人 (H25)	→	4,372 人 (H29)

事業内容

基幹事業（1,249 百万円）→地方都市リノベーション推進施設（羽咋市中学校体育施設 1 か所 5,595.35 m²）
 道路（10号線：幅員 6.6m、延長 150m 288号線：幅員 7.0m、延長 70m）、
 地域生活基盤施設（羽咋駅もてなし空間整備 A=4,000 m²）
 高質空間形成施設（羽咋駅おもてなしトイレ 5.3 m²）



地区の現況と課題

現況

進行する少子高齢化への対応や停滞が続く地域産業の活性化、安全で安心なまちづくりなどが喫緊の課題となっており、特に、中心市街地を主に形成する羽咋地区の人口は平成2年から平成22年の20年間で20.5%減少するなど、求心力は急激に低下している状況にある。

課題

課題

羽咋市の「顔」としての都市機能の再編・強化のため、JR七尾線羽咋駅周辺の施設を充実させ、市民生活の利便性向上を図るとともに、北陸新幹線効果による能登への観光客や来訪者を迎える玄関口としてのサービス向上を図る必要がある。

計画策定プロセス

地方都市リノベーション推進施設

羽咋中学校体育施設を学習の場に加え、市民の交流の場、防災拠点としての機能も備えた拠点として整備し、都市機能の再編・強化を図ることにより、中心拠点地区における定住人口の確保。体育スポーツ活動機能の集約化により、市内外にわたり各種大会を誘致・推進し、交流の創出と活性化を図る。

その他基幹事業での都市機能の再編・強化

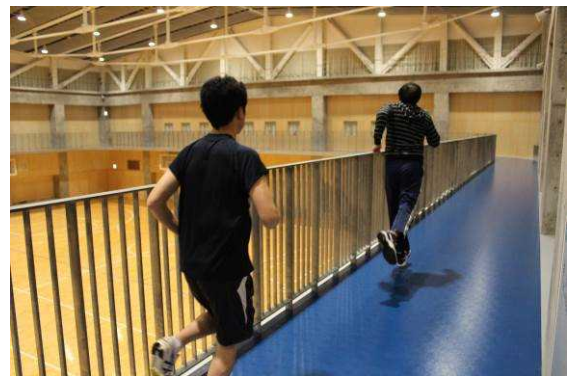
- ・道路 リノベーション施設へのアクセスを容易にするための道路整備
- ・地域生活基盤 魅力あるまちづくりを推進するための、羽咋駅もてなし空間整備
- ・高質空間形成 羽咋駅おもてなしトイレ

計画策定における経緯

学校など教育文化施設は、地域の活力と賑わい拠点の創出および防災拠点としての役割を持っており、現位置での建替えや周辺道路の整備によりまちなか再生、持続する機能強化を図ることにより、安心で安全なまちづくりに取り組みをおこなっている。



羽咋中学校体育施設



羽咋中学校体育施設ランニングロード



羽咋駅もてなし空間整備



羽咋駅おもてなしトイレ